

## 職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
大阪保育福祉専門学校	昭和46年4月1日	安原 千香子	〒618-0001 大阪府三島郡島本町山崎5-3-10 (電話) 075-962-1115			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
社会福祉法人 大阪水上隣保館	昭和27年4月1日	理事長 黒川 芳朝	〒618-0001 大阪府三島郡島本町山崎5-3-18 (電話) 075-961-0711			
目 的	児童福祉法及び社会福祉主事法の規定に基づく「保育士」及び「社会福祉主事」を育成するため(卒業後、指導員として就職することにより社会福祉士の受験資格も取得可能)、「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」及び「社会福祉主事養成機関等指定規則」に基づく養成機関として、ケアワークからソーシャルワークまで幅広い教養・高度な専門知識を学ぶとともに、演習と実習によって専門職としての実力を養うことにより、保育・福祉分野に適応できる「愛ある働き人」を養成することを目的とする。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
教育・社会福祉専門課程	教育・社会福祉専門課程	昼間部三年課程 児童福祉科	3年 (昼)	178単位 3060時間 (又は単位)	平成6年文部科学大臣告示84号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	71単位 1080時間 (又は単位)	142単位 2130時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	19単位 855時間 (又は単位)	4単位 60時間 (又は単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
150人	95人	6人	60人	66人		
学期制度	■前期：4月1日～8月31日 ■後期：9月1日～3月31日			成績評価	■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について 優・良・可・不可 出席日数及び筆記試験他	
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏 季：8月第2週～9月第1週 ■冬 季：12月23日頃～1月第1日曜 ■学 年 末：3月31日			卒業・進級条件	卒業条件：学則の教育課程表により178単位を修得した者。 進級条件：各学年に取得すべき必修科目を修得した者。	
生徒指導	■クラス担任制 (有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 連続欠席時の担任との面談等による指導 三者面談			課外活動	■課外活動の種類：平均1～3種類 施設から依頼のあるボランティア 学生が主体となって行っているボランティア同好会 ■サークル活動 (有・無)	

就職等の状況	<b>■主な就職先、業界等：</b> 保育所・児童養護施設・障害者支援施設等 <b>■就職率<sup>※1</sup> 100%</b> <b>■卒業者に占める就職者の割合<sup>※2</sup> 97.9%</b> （平成26年度卒業者に関する平成26年5月時点の情報）	<b>主な資格・検定</b>	保育士 社会福祉主事任用資格
中途退学の現状	<b>■中途退学者 11 名 ■中退率 9.2 %</b> 平成 25年 4月 1日在学者 120名（平成 25年 4月入学者を含む） 平成 26年 3月 31日在学者 109名（平成 26年 3月卒業生を含む） <b>■中途退学の主な理由</b> 経済的理由、進路変更、学業不振、健康上の理由 <b>■中退防止のための取組</b> クラス担任による個別面談や三者面談等で、状況把握。科会で検討の上、適切な対応。 学費分納制度等の経済的支援。		
ホームページ	URL: <a href="http://www.o-hosen.ac.jp">http://www.o-hosen.ac.jp</a>		

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

## 1. 教育課程の編成

### (教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」及び「社会福祉主事養成機関等指定規則」等、保育士養成施設・社会福祉主事養成施設として定められた規定に基づいて教育課程の編成を行うとともに、学生の実習・就職先である保育所・福祉施設等の意見等を教育課程の編成に活かし、即戦力となる人材を養成するために下記の事項を推進する。

- ① 保育所・福祉施設等との協議を踏まえた「実施方針・指導方針」・「実習計画」・「実習の進め方と課題」策定。
- ② 保育所・福祉施設等の職員（本校卒業生・実習指導職員等）を講師とする実習及び就職指導に関する演習授業・講演会の実施。
- ③ 保育士養成校協議会地域ブロック（京滋奈・大阪・兵庫）主催、「実習施設と養成校懇談会」への出席を通して、保育所・福祉施設等の動向及び実習指導等に対する要望を把握。
- ④ 保育所・福祉施設等での現場経験豊富な講師による講義・演習・実習の実施。
- ⑤ ①～④を通じて得られた意見・情報の教育課程編成委員会等における活用。

### (教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成26年10月1日現在

名 前	所 属
加藤 曜子	流通科学大学 大学教授 社会福祉法人大阪水上隣保館 評議員
田村 ゆみ	社会福祉法人聖ヨハネ学園 高槻市立うの花療育園(福祉型児童発達支援センター) 施設長 ・ 卒業生
西田 幸市	社会福祉法人大阪府衛生会 理事長、同法人健康の里(児童養護施設) 施設長
渡邊 治子	社会福祉法人大阪水上隣保館 評議員 社会福祉法人大阪水上隣保館 地域子育て支援拠点センター ファミリーポートひらかた 地域子育て部門チーフアドバイザー
安原 千香子	学校長
植田 彌生	副校長・学科長
鷲岡 由美	保育科教員
小川 和代	児童福祉科教員

### (開催日時)

第1回 平成26年1月18日 14:00～15:30

第2回 平成26年8月20日 14:00～16:00

## 2. 主な実習・演習等

### (実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

「相談援助実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ」及び「保育実習ⅠB・Ⅱ」は、取得した教科目全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養い、また対象児者や保育所・福祉施設等に対する理解を通して、保育・福祉の理論と実践の関係について習熟することを目的とする。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
相談援助実習Ⅰ	相談援助実習を通して相談援助に係わる知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得する。また社会福祉士として求められる資質、技術、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。	児童養護施設 障害者支援施設(入所) 医療型障害児入所施設
保育実習ⅠB	保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能・役割と保育士の職務・職業倫理、子	保育所

	どもの最善の利益の具体化について学ぶ。	
保育実習 II	保育所保育を実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。	保育所
相談援助実習 II	障害者通所施設での実習を通して、障害者や通所施設の役割について理解すると共に、障害者の地域生活支援の視点から相談援助に関わる知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、実践的な技術等を体得する。また、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題等、総合的に対応できる能力を習得する。その他、関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。	障害者支援施設(通所)
保育実習 IV	学生一人ひとりが保育者・福祉従事者として仕事をする上で必要な専門知識、技術の内容を深め、専門性を高める。そのために、各自が研究テーマを設定し、研究の方法と実習を計画し、実施した上で研究レポートをまとめる。また、実践や理論を基に授業で討議を積み重ね、支援を専門技術として理論化し、体得する。	児童養護施設、 障害者支援施設(入所)、 医療型障害児入所施設、 障害者支援施設(通所)、 保育所、幼稚園、乳児院 等

### 3. 教員の研修等

#### (教員の研修等の基本方針)

教員に対し計画的に研修・研究の機会を提供し、教員の資質・能力を高め、教育的使命感に根ざした実践的な指導力の向上を図るとともに、教員の意識改革及び学校改革を支援し、学校の教育力の向上に取り組むことを目的とする。

### 4. 学校関係者評価

#### (学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成 26 年 10 月 1 日現在

名 前	所 属
榎谷 綾子	高槻市立富田保育所 所長 ・ 卒業生
村井 徹	社会福祉法人大阪水上隣保館 児童養護施設 遙学園 施設長
吉田 美代子	学校法人山崎学園 山崎幼稚園 園長

#### (学校関係者評価結果の公表方法)

URL:<http://www.o-hosen.ac.jp>

### 5. 情報提供

#### (情報提供の方法)

URL:<http://www.o-hosen.ac.jp>

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 児童福祉学科) 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			保育原理	保育の意義についてその重要性和幅広い裏付けを理解する。保育に関する制度と場について歴史や環境の変遷を踏まえ理解する。さらに発達の理解や家庭・地域の保育ニーズを理解した上で、保育の現状と課題を学び、相談援助の実践について考える。	1前	30	2	○		
○			児童福祉論	児童福祉の意義や歴史、関連する法律や制度、機関や施設について体系的に学ぶ。そしてより実践的な視点から、児童福祉サービスの現状と課題、その対策を把握し、児童や家族に対する専門職としての役割、相談援助活動について理解する。	1前	30	2	○		
○			社会福祉原論 I	現代社会における社会福祉の意義や理念、法体系や制度、行財政について理解する。その中における役割活動を理解するとともに、専門職としての役割を学ぶ。さらに関連領域の概要や利用者保護制度について理解する。	1前	30	2	○		
○			社会的養護	欧米、日本の児童養護の歴史的考察から近年における社会的養護の理解と考察をする。さらに要保護児童と施設養護の基本原則に基づく援助技術を理解し、その意義と課題について研鑽を深める。ひいては子ども、親・家族等子育てについて考える機会とする。	1前	30	2	○		
○			保育者論	保育者の仕事の専門性について、それまでに学んだ保育に関する原理、思想、法制度、保育内容、取り巻く環境のニーズなどについて改めて確認しながら学ぶ。保育者として必要な資質と責務、担う役割について考察し、保育観を養う。	1後	30	2	○		
○			教育原理	人間の営みとしての教育の基礎知識(教育の意義、目的、歴史、制度、など)を理解する。教育の基礎的概論、理論について学び、児童福祉との関連について考察する。基本的な実践原理、指導原理を理解し、現代社会における教育問題について学ぶ。生涯学習社会における教育観、教育学的思考や態度について学ぶ。	2前	30	2	○		

○			社会福祉援助技術論Ⅰ	保育・社会福祉従事者として必要な社会福祉援助技術の目的、歴史、理念、体系等の基本、人権尊重、自立支援、秘密保持等の基本姿勢を理解する。ケースワーク、グループワークを具体的な演習形態で学び、コミュニティーワーク、ケアマネージメントについて理解する。	2後	30	2	○		
○			社会福祉原論Ⅱ	日本と欧米の社会福祉の歴史（戦前から戦後、福祉改革）を学んだ上で、福祉政策の国際比較と現代的課題や方向性を理解し、福祉従事者としての知識や姿勢を養っていく。	3後	30	2	○		
○			社会福祉援助技術論Ⅱ	社会福祉援助技術論Ⅰをふまえ、グループワークやコミュニティーワークなどのソーシャルワークの各技法についての体系や内容の理解を深めるとともに、関連する援助技術についても知識を持てるようにする。	3前	30	2	○		
○			社会福祉援助技術論Ⅲ	社会福祉援助技術論Ⅱにおいて学習したグループワーク、コミュニティーワークの展開過程について確認するとともに、援助技術を支える相談援助における理念について理解する。さらに、この授業で学ぶ知識・理念を事例の検討を通して、実践に役立てられるようにする。	3前	30	2	○		
○			心理学Ⅰ (発達心理学)	保育は子どもがよき大人に発達するよう援助する営みである。その発達について生涯発達観を軸にして受精から死までの発達について理解しながら、特に胎児期から青年期までの発達を学び、その特徴を理解する。基礎的課題を理解しながら、保育の場と結びつけ、発達期の特徴、発達の課題や発達支援のあり方を考察する。	1後	30	2	○		
○			子どもの保健Ⅰ	生命の保持と情緒の安定を図る保育における子どもの健康の意味を認識し、保育実践における保健活動の重要性を理解する。子どもの心身における健康問題について具体的に学び、今日的問題の原因は養育環境や養育方法にあることも認識し、適切に対処できるようにする。	1後	30	2	○		
○			子どもの食と栄養Ⅰ	子どもの栄養と食生活は生涯にわたる健康と生活の基礎となること、心の健康や家族・地域との関係と密接に繋がること、さらに成人に至るまでの一貫した食生活の意義について理解する。栄養の基本的知識・発育発達と食生活について学ぶ。	1前	30	2	○		
○			子どもの食と栄養Ⅱ	Ⅰを踏まえ、さらに保育における食生活のあり方について理解する。家庭や施設の食事と栄養・特別な配慮を要する子どもの食と栄養について学ぶ。調乳・離乳食・幼児の弁当・行事食・幼児の朝食・学童期の食事の実習を通して、食育の基本と重要性を学ぶ。	1後	30	2	○		
○			心理学Ⅱ (教育心理学)	養護、保育を構成する要素としての教育における心理学的法則や事実を理解し、より子どもを理解し支援するために、効果的な養護、保育を展開するために教育心理学の基礎を学ぶ。生涯発達の視点から、さらに子育て支援（保護者相談など）に	2前	30	2	○		

				対応できる力を養う。						
○			子どもの保健 II	子どもの身体、生理、精神、情緒、運動能力の発育発達を理解する。子どもの疾病異常や事故、小児虐待等の特徴とその早期発見や予防について理解する。子どもの健康が家庭や地域と密接な関係であること、集団生活に於ける配慮と対処、専門機関との連携や保健活動について学ぶ。	2 前	30	2	○		
○			子どもの保健 III	子どもの発育発達状態、健康状態を正しく把握し、保育中の子どもの健康と安全を守るために、I・IIで学んだ「子どもの健全育成」という理論を踏まえ、実践できる応用能力と技術を習得する。緊急時対応についても実習を通じて理解する。	2 後	30	2	○		
○			家庭福祉論	家庭の意義と機能を理解した上で、取り巻く社会状況の変化、そこに生じる子育て、子育ての問題について事例を踏まえて学ぶ。「子育て支援」が重要な社会的役割であることを認識し、現在の支援状況や各機関との連携と課題を学び、ニーズに応じた支援について考察する。	2 前	30	2	○		
○			保育内容総論	保育所保育指針、幼稚園教育要領における保育の目標と内容を理解し、各領域の関連性と全体構造を捉える。また幼児理解、活動内容、環境構成、指導計画などから保育の流れを捉え、保育者の役割と援助のあり方を学ぶ。エピソードを交え理論と実際を学習する。小学校との接続や多様な保育ニーズへの対応などについて考える。	1 後	30	2	○		
○			保育内容演習 子どもと生活 と活動	保育士として、心と体の発達過程に即して子どもを理解し、生活や遊びにおける子どもの生きる力について学ぶ。そのうえで指導・援助が行えるよう、実践的な力を習得する。	1 前	30	2	○		
○			保育内容演習 子どもと環境 I	人間形成の基礎ができる最も大切な乳幼児期、子どもが豊かな人間として育つための人間関係・人的環境について考え、子どもが人とかかわる力を養うための保育者の役割について学ぶ。	1 前	30	2	○		
○			保育内容演習 子どもと言葉	乳幼児期におけることばの発達のみちすじを学ぶ。豊かなことばを受け止め、育てるための援助や役割について学ぶ。児童文化財によって子どもが持つことばの力を育てることを実践的に学ぶ。	1 後	30	2	○		
○			保育内容演習 子どもと表現 I	子どもの発達やとりまく環境を視野に入れ、子どもの音楽表現活動について学ぶ。子どもの感性を育むために、保育・幼児教育の指導者に必要とされる役割について学ぶ。音に親しみ、音楽表現活動の楽しさを体感することで、保育現場での実践力を養う。	1 前	30	2	○		

○		保育内容演習 子どもと表現 II	子どもの発達の道筋を理解しながら、造形活動について学ぶ。また、保育の実践、展開に必要な基礎的な演習に取り組み、保育現場で応用実践できる能力を習得する。	1 後	30	2		○	
○		乳児保育 I	乳児保育の変遷と保育所・乳児院・家庭の現状や役割を学び、乳児に対する関心や慈愛を深め、乳児保育の担い手としての役割を自覚する。3歳未満児の特徴や発達について学び、豊かな成長を支える乳児の生活と遊びを理解する。	1 後	30	2		○	
○		社会的養護内 容	児童福祉施設を利用している児童の立場から生活プログラムを作成したり、グループワークを通じて調査や発表をしたりすることから、具体的な児童の生活や援助者の援助を理解する。その中での協力や連携など、タスクに対して取り組んでいく集団の力動やチームワークについても学ぶ機会とする。	1 後	30	2		○	
○		カウンセリング (保育相談支 援)	保育相談支援に関する基礎知識の習得に加え、保育現場における保護者に対する実際の支援の方法について、カウンセリングの基礎理論を援用しながら習得する。	1 後	30	2		○	
○		保育課程論	保育の基本的な考え方を確認しつつ、カリキュラムの基礎理論や保育計画の意義を学ぶ。保育課程の編成と展開、指導計画の作成と展開等を学び、子どもの発達と生活に即した保育計画を作成できる力量を身につける。	2 前	30	2	○		
○		保育内容演習 子どもと環境 II	幼稚園教育要領および保育指針における領域「環境」のねらいと内容を理解したうえで、子どもの生活が豊かになることを目指した保育者の援助方法を習得する。自然環境、物的環境、数量・図形、地域との関わりなどを取り上げ、できるだけ体験的に学べるよう演習を行う。	2 前	30	2		○	
○		乳児保育 II	乳児理解を深め、保育所、乳児院等に於ける現状と課題について理解する。乳児保育に対するニーズの多様化や子育て支援等の多様な課題について、討議をしながら考え、問題解決の方法を理解する。	2 前	30	2		○	
○		障害児保育 I	障害観の見直しと基本となる視点や様々な障害に関する基礎知識を学ぶ。障害児保育の実践(保育所・幼稚園を中心として)に於ける留意点や現状と諸問題について理解を深め、各自の障害観・保育観の見直しと取り組みの姿勢を養う。	2 後	30	2		○	
○		障害児保育 II	障害児保育を支える理念に関して理解を深め、併せて保育所・障害乳幼児通園施設等での保育の変遷と現状を理解する。障害児保育における、子ども、保護者との関係作り、他職種との協働、他機関との連携について学ぶ。また、自分なりの人間観を持って、障害児保育実践に向う意識を養う。	2 後	30	2		○	

○		児童虐待	具体的なテーマに沿って、児童虐待の原因と予防対策、子どものトラウマ克服と親業支援、施設内虐待等について知る。さらに「いじめ」（虐め）についても考察する。児童虐待に関する現状、その対応のための制度とその運用状況を概観し、現在の対応の課題を学ぶ。	3 前	30	2		○	
○		器楽 I	子どもの表現活動を支える保育を展開するため、また対象者の活動を豊かにするために、音楽の基本的な知識を学びながら、必要なピアノの演奏技術の習得及び伴奏法の向上を目指す。	1 通	30	2		○	
○		音楽	音楽理論の基礎知識を学習したうえで、保育現場で生かすことのできる歌を歌うなど、様々な活動を通して楽しさや喜びを体験する。また、保育のなかで取り扱う教材やそれらを展開するために必要な知識や技能を習得する。	1 通	30	2		○	
○		保育内容総合演習 I	履修する保育内容の科目と連携しながら、保育内容を総合的にとらえる視点を養う。保育の全体構造の理解に基づいて、子どもの理解や保育方法について学ぶ。伝承遊び、リズムあそび、造形あそび、音あそび等、様々な活動を自らが経験し楽しみ、主体的に取り組む姿勢を育てる。	1 前	60	4		○	
○		相談援助実習 I	実践を通して施設の機能、職員の職務内容と役割、対象児についての基本的理解を深める。対象施設は児童養護施設、障害者支援施設、医療型障害児施設の3種類である。	1 通	90	2			○
○		相談援助実習指導 I	事前学習では対象児・対象施設について理解するとともに、実習生としての基本的態度、心構えを身につける。事後学習では実習の反省・評価を今後の学びにつなげる。	1 通	60	4		○	
○		保育実習 IB	保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深める。保育所の持つ機能・役割・実態を実際の経験を通して理解し、保育の内容を体験的に学習する。	2 前	90	2			○
○		保育実習指導 IB	保育所実習に必要な知識・技術を身につける。事前学習として講義や視聴覚学習等を用いた演習を行い、また実習施設において見学・オリエンテーション等を行う。	2 前	30	2		○	
○		相談援助実習 II	保育所以外の児童福祉施設に入所・通所している児童の理解を深め、養護を実際実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。家庭と地域の実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。	3 前	90	2			○
○		相談援助実習指導 II	保育所以外の児童福祉施設についての理解を深め、個別指導・グループ討議を通して、自分自身で考え、学び、行動する力を身につけることができるようにする。	3 前	30	2		○	

○		相談援助実習Ⅲ	社会福祉事務所、社会福祉協議会の活動、児童相談所など、相談援助業務に関して学び、利用者の理解や需要の把握等をおこなった上で、その業務実際を見学体験する。	2 後	45	1			○
○		相談援助実習指導Ⅲ	社会福祉主事任用資格を取得することを目的とし、その実習の意義の理解や適切な実習施設の選択をおこなう。社会福祉事務所、児童相談所などに関する機能や役割、現状についての知識を習得する。	2 通	15	1			○
○		相談援助実習Ⅳ	保育者として仕事をする上で必要な専門知識・技術・実技・課題の内容を深める。各自が研究テーマを設定し、研究方法と内容を計画する。実習後は研究レポートを作成し、今後の課題を明確にする。	3 通	270	6			○
○		相談援助演習Ⅰ	保育実習ⅠA・保育実習ⅠBに安心して取り組めるよう、実習生としての基本的態度、心構えを身につけること、また既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、実習に必要な実践力を習得することを目的とする。	1 通	60	4			○
○		地域子育て支援演習Ⅰ	子育て支援行事としての「子育てスクール」に向けて企画や運営に参加することにより、地域・子ども・学生がつながりを深め、「家庭や地域とのつながり」、「地域での学校の役割」や「遊びの魅力」などの重要性を学ぶ。また当日は、それまでの演習科目での実践発表や遊びを通して、地域の親子と関わる経験をし、「遊びや子育ての魅力」を体験的に学ぶ。	1 通	15	1			○
○		保育内容総合演習Ⅱ	保育内容総合演習Ⅰで学んだ基礎知識や理解の確認と展開。児童文学、ボディートーク、子どもの歌、造形等の演習に取り組む。	2 前	60	4			○
○		地域子育て支援演習Ⅱ	子育て支援行事である「子育てスクール」に向けて、クラスを主な活動の中心としながら、その他の演習科目も含め、企画準備を行える知識・技術を習得する。	2 通	15	1			○
○		相談援助演習Ⅱ	実習前は、援助活動に必要な専門援助技術・記録実技等についての理解を深めるとともに、専門知識の内容を深める。合わせて、指導を受けながら、研究テーマの設定から研究実習計画を綿密に行う。実習後は、研究レポートを作成し、今後の課題を明確にする。	3 通	60	4			○
○		相談援助演習Ⅲ	子育て支援・障害児者・児童福祉施設の課題・問題について事例等により理解を深める。グループ討議やロールプレイ等により、相談援助・面接の技法、対人援助の基礎を習得、または、個別支援計画の作成や教材作りなど援助者として必要な支援の知識や技術等を習得する。	3 通	60	4			○

○			地域子育て支援演習Ⅲ	子育てスクールに向けて、クラスを主な活動の中心としながら、その他の演習科目も含め、企画準備を行える知識・技術を習得する。	3通	15	1		○	
○			保健体育・レクリエーション	創作ダンスや球技種目、ニュースポーツや障害者スポーツなどを通して、運動の楽しさや喜びと安全性への配慮を体得する。また、保育の中で取り上げる運動遊びに関する知識や技能を習得する。	1通	60	4	△		○
○			法学	日本国憲法の基本的な概念・仕組みについて理解する。また、日本国憲法における諸問題（基本的人権の保障と国の統治の仕組み）について学び、現代において憲法がどのような意味をもつのかを日々の生活の具体例から考察する。	1前	30	2	○		
○			キリスト教教育Ⅰ	本校の建学の基盤はキリスト教の精神である。将来、乳幼児・障害者・(高齢者)の福祉のために働く者として、知識・技術の習得だけでなく、聖書にあるように、愛と奉仕と忍耐の心をもって仕えていく人になることを目的としている。	1通	30	2		○	
○			基礎演習Ⅰ	学校行事等を通して自己覚知し、資格を目指して自己研鑽する。そのために、社会福祉にかかわる者として人間の尊厳と平等を守る姿勢を貫くことや、子ども・高齢者・障害児者への必要・的確な援助を創設者の理念を基に理解する。	1通	30	2		○	
○			社会保障論	社会福祉従事者として理解しておくべき、日本の社会保障制度(年金、医療保障、介護保険、労働保険)の理念と概念、体系と概要、対象について学ぶ。民間制度と公的施策の関係をj知る。少子高齢化社会において社会保障の制度的な問題点を理解し21世紀に向けて社会保障のあり方について考察する。	2後	30	2	○		
○			公的扶助論	公的扶助理念の発達(歴史)をはじめ、概念と範囲、わが国における生活保護の基本原則・原則と保護の種類やしきみ、関連制度などを理解する。また、実施体制・援助活動や実務、関連分野の組織・専門職との連携について知る。	2後	30	2	○		
○			障害者福祉論Ⅰ	障害者福祉の基礎および児童編として、障害とは何かその概念と範囲、障害者福祉の理念や歴史、障害児に対する支援、障害児の家族支援などを学び、障害福祉の基本的な考え方を理解・修得し、障害者に対する相談や支援をおこなうための知識や技術を身につける。	2前	30	2	○		
○			障害者福祉論Ⅱ	障害者福祉の成人編として、障害者福祉の施策・サービスの概要、障害者に対する相談・支援、障害者福祉の関連施策などを学ぶ。障害者福祉論Ⅰと併せて、障害福祉の基本的な考え方を理解・修得し、障害者に対する相談や支援をおこなうための知識や技術を身につける。	2後	30	2	○		

○		社会福祉施設 経営論	社会福祉施設の、体系及び制度の概要と役割・機能、福祉サービスの理念、経営、管理と運営の基本、人事と労務管理について学び、社会福祉施設経営の理解を深める。	2 後	60	4	○		
○		社会学	家族の基本的知識と現在生じている家族変動、特に少子化、高齢化の影響について理解する。虐待、ネグレクトの増加、少年非行や犯罪、情緒障害、精神障害など、子育て支援、家族支援について学ぶ。	2 後	30	2	○		
○		倫理学	文学・生物学・精神医学・社会科学・哲学などのすぐれた文献を読み且つ討論することを通して、自分自身及び乳幼児を含めた人間の多様な内面と行動を理解する基礎を学ぶ。	2 後	30	2	○		
○		キリスト教教育Ⅱ	チャペルアワー(礼拝形式)に参加し、聖書を学び、話を通じて自分のあり方を考える。その他、行事や講座、講演を通してキリスト教を学ぶ。	2 通	30	2	○		
○		基礎演習Ⅱ	保育士として社会福祉の現場で働く者にふさわしい人格を磨くとともに、就職活動の支援を行う。進学や他業種に進む者にも同等の指導を行う。また学校行事の企画や準備におこなうことで、協力・協調性を学ぶ機会とする。	2 通	30	2	○		
○		社会調査の基礎	社会福祉士としての業務・責任を遂行するために、社会(福祉)調査の意義と目的、そして調査の方法について理解する。また、その重要性、限界、倫理、個人情報保護について認識する。簡単な統計学や分析方法を利用しつつ、社会の現状を実際に理解する。	3 前	30	2	○		
○		福祉行財政と福祉計画	社会福祉行財政や福祉計画の役割・実際について把握し、その意義や目的、留意点について学ぶ。社会福祉政策を体系的に理解し、今後の政策について検討する。	3 後	30	2	○		
○		老人福祉論	高齢者の現状や社会的背景を知り、現代の老人福祉の理念と目的を理解する。老人福祉の歴史の変遷を学んだ上で老人福祉、老人保健、介護保険の各制度の概要やサービス体系、内容を理解する。また各自で調べることを通して、自身の地域における高齢者福祉の現状を理解し、取り組むべき課題について考察する。	3 通	60	4	○		
○		地域福祉論	地域の概念や地域福祉とは何かを考え、その理念や歴史的展開を学び、それらを踏まえたうえで、日本の現状を理解する。また地域福祉を支える制度や組織・団体、そこでのネットワークや連携、役割のあり方について学び、専門職としてどのように実践するのかについて考える。	3 前	30	2	○		
○		福祉事務所運営論	社会福祉の法体系を総合的に理解するとともに、福祉行政に関わる福祉事務所の法的な性格と機能を知る。福祉事務所の組織と各職種の業務内容について理解する。また、関連機関との連携について知る。	3 前	30	2	○		

○			介護概論Ⅰ	介護を必要とする人の障害や社会的背景を理解するとともに、介護の意義、目的、機能及び介護の基本的な知識・技術・展開方法を学習する。病気や遭遇しやすい事故についての知識をもち、それらに対する予防的措置ができるようにする。	3 前	30	2		○	
○			介護概論Ⅱ	介護の役割と範囲を理解し、介護における技法や関係専門職(家政、看護、医療)との適切な連携を図ることの必要性を学ぶ。社会福祉士にとって、その専門性を獲得する上で、介護に関する身体的及び精神的な変化に対する観察能力を身につけ、速やかに対応できる知識の習得や、関係機関との連携・協力の重要性を理解する。	3 後	30	2		○	
○			保健医療サービス	医療保険制度、診療報酬制度を理解し、医療制度改革の流れをつかむ。また、保険医療分野での医療ソーシャルワーカーの業務指針を中心に、医療ソーシャルワーカーの業務を理解する。	3 前	30	2		○	
○			医学一般	人体の構造、機能の概要と病的状態、人の成長と発達について知る。国際生活機能分類の基本的考え方と概要を学び、疾病と障害、リハビリテーションの概要を学ぶ。保健医療対策、医事法制と保健医療機関について理解する。	3 後	30	2		○	
○			経済学	日常生活において欠かせない経済について、基本的な経済用語を理解し、経済活動に関する知識を深める。加えて、経済学の考え方を理解し、経済活動に適用できる応用力を身につける。	3 後	30	2		○	
○			人権講座	人権の概要・部落差別・障害者差別・女性差別等を学ぶことで、人権の大切さと具体的差別の現状を理解する。	2 後	15	1		○	
○			キリスト教教育Ⅲ	チャペルアワー(礼拝形式)に参加し、聖書を学び、話を通じて自分のあり方を考える。その他、行事や講座、講演を通してキリスト教を学ぶ。	3 通	30	2		○	
○			基礎演習Ⅲ	1年後、保育士として社会福祉の現場で働く者にふさわしい人格を磨くとともに、就職活動の支援を行う。進学や他業種に進む者にも同等の指導を行う。就職斡旋・指導というよりもキャリアガイダンス(人生設計)的性格をもっている。	3 通	30	2		○	
	○		保育実習Ⅱ	保育所の保育全般に参加し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。子どもの発達や個人差を把握し理解を深めて具体的な援助方法を習得できるようにする。家庭と地域の実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。	2 通	90	2			○
	○		保育実習指導Ⅱ	保育所における遊びとその援助を指導計画の立案と実践により具体的に学ぶ。また実習を振り返って課題を明確にするとともに、保育士の役割や地域社会における保育所の機能を学ぶ。	2 通	45	3		○	

	○	保育実習準備Ⅱ	体験学習を通して子どもとのかかわりや保育の方法への理解を深め実践する。またそれに伴う記録の書き方を学び、保育実習に当たり、自信を持って臨めるように、具体的な保育技術の向上を目指して視聴覚教材を作製し演習する。	2 前	30	2		○	
	○	幼児体育	各運動種目を指導する際の、補助・援助法、安全指導の理解や把握をして環境作りを学ぶ。また、運動面だけではなく、心の育ちも含めての育ちに、保育士としてどう関わっていくかを考える。	2 前	30	2		○	
	○	キリスト教保育	愛、感謝、祈り、謙虚などの態度を大切にすキリスト教の人間観を学びつつ、キリスト教系の保育所の保育内容を理解する。	2 後	30	2		○	
	○	野外活動Ⅰ	体験型授業を中心に進める。組織キャンプのリーダーに必要な理論・技術を習得し、野外活動プログラムの企画・運営・指導の講義基礎を学ぶ。	1 前	30	2		○	
	○	器楽Ⅱ	ピアノの演奏技術を向上させ、レパートリーを増やししながら音楽的表現力を高める。また実力に応じた応用力を身につける。	2 通	30	2		○	
	○	器楽特別演習	実力にあわせて簡単な和声付け・弾き歌い・初見弾きなども実践する。	2 ・ 3 前	15	1		○	
	○	野外活動Ⅱ	2泊3日のキャンプに参加し、自然体験や宿泊体験を中心とした野外でのキャンププログラム活動を行う。また人間関係を豊かにするためのイニシアティブゲーム、自然に対する理解を深める自然体験ゲームなどを体験する。レクリエーション活動の知識・や技術の習得と、福祉従事者として必要な人間関係を学ぶ。	2 ・ 3 後	15	1		○	
	○	器楽Ⅲ	ピアノの演奏技術を向上させ、レパートリーを増やししながら音楽的表現力を高める。また実力に応じた応用力を身につける。	3 通	30	2		○	
	○	音楽療法	音楽療法の基礎を理解し、実践方法を知る。安全な手作り楽器の製作、音楽療法セッションのロールプレイ実施により、音楽療法セッションの実施を学ぶ。	1 ・ 2 ・ 3 後	15	1		○	
	○	手話入門	聴覚障害の基礎知識、手話の基礎知識、聴覚障害者の生活、表現基礎学習、手話による表現（手話を読み取る力、手話による表現力、対話の基礎練習等）を学ぶ。	1 ・ 2 ・ 3 前	30	2		○	

	○		ダンス	ダンスを通じて、人とのコミュニケーションや、努力し、楽しむことを学習する。新しい自分の発見や殻を破ることへの楽しさを味わう。	1 ・ 2 ・ 3 前	15	1		○	
	○		陶芸	福祉現場での陶芸技術を活用してさまざまなニーズに対応できる能力を身につける。	1 ・ 2 ・ 3 前	30	2		○	
	○		パソコン	パソコンに慣れ親しむ。Word・Excelを主とし、個々のスキルアップを図る。	1 ・ 2 ・ 3 後	15	1		○	
	○		ヤングアメリカンズ	アメリカの若者であるスタッフのサポートのもと、在校生や法人内児童養護施設等の子ども、地域の子も達と一緒に3日間でミュージカルの舞台を作り上げていく地域参加型体験授業を行う。これらを通し、SELF WORTH、RESPECT FOR OTHERS、PERFORMING ART、TEAM WORK、INTERNATIONALを学ぶ。	1 ・ 2 ・ 3 前	15	1		○	
	○		英会話	英会話に必要な基本的英語表現、英語の語感、リズム、イントネーションを習得する。また、海外旅行で役立つ表現を学ぶ。	1 前	30	2		○	
	○		子ども学	東西の歴史や文化の中で子どもはどう見られ扱われてきたかを探り、文化相対主義の立場から子どもの存在意義を考える。これらを通して、子ども観・扱いの多様さを知り、考える力を養う。	2 後	30	2	○		
	○		ガイドヘルパー(知的)資格取得講座	障害者(児)福祉制度、移動支援従業者の業務や職業倫理、障害の理解、人権や心理等を学ぶ。	1 ・ 2 後	15	1		○	
	○		重度訪問介護資格取得講座	全身性障害者の地域生活支援、全身性障害者の疾病や障害の理解、基礎的医学一般等の講義のほか、介護技術実習や外出介護実習を行い、重度の身体障害者に対する、自宅での入浴や食事等の介護や家事支援、外出時介護についての知識や技能を身につける。	1 ・ 2 後	15	1		○	
		○	情報リテラシーと処理技術	パソコンの扱いに慣れ親しむとともに、一般的なアプリケーションソフトウェアであるWord・Excel・PowerPointの基本的な操作を学ぶ。	2 前	30	2		○	
		○	教職専門	身近な出来事や事例を取りあげ、保育・幼稚園現場における実情や課題を把握する。保育者・教諭としての職務について理解し、これから求められる保育者・教諭像を追究する。	2 後	30	2	○		

		○	幼児教育実習 I	幼稚園実習を核とし、幼稚園における幼児の活動と生活の実際を具体的に知る。1年次に学んだ保育の知識、技術を基盤として、幼児教育を実践する上で必要な専門知識・技術についての学びを深め、幼稚園の役割と幼稚園教諭の援助のあり方について考える。	2 前	90	2			○
		○	幼児教育実習 指導 I	幼稚園実習に必要な基礎知識を学ぶ。「観察・参加実習」を中心とし、簡単な部分実習（パネルシアター等）について指導計画を立て実践する。	2 前	30	2			○
		○	幼児教育実習 II	幼稚園実習を核とし、幼稚園における幼児教育についての学びを深める。前期に学んだ知識、技術を基盤として、幼児教育を実践する上で必要な専門知識・技術の内容を深め、幼稚園の役割と幼稚園教諭の援助のあり方について考察したことを基に、自分なりの考えを持つ力を養う。	2 後	90	2			○
		○	幼児教育実習 指導 II	前期に学んだ知識、技術を基盤にして、個別に実習内容を計画し、工夫して準備を進め、実践する。部分実習や一日（半日）実習を体験し、振り返る。	2 後	30	2			○
合計					82科目	3060単位時間（178単位）				